

## 尾平町南自治会紹介

### 柳橋のひとりごと

私が住む町、尾平町南自治会は百世帯余りの小さな町で通商尾平南と呼ばれています。県道 477 号に沿って流れる三滝川に架かる「おびらばし」、その兩岸に建ち並ぶ家並みが尾平南です。民家が兩岸にあることから橋の北側は「橋北」、南側は「橋向」と今でもそう呼んでいます。昭和 30 年頃の「橋向」を走る県道 477（湯の山街道）は舗装されておらず地道で自動車を通ると砂埃を巻き上げて走り去って行きました。その道路沿いには商店が立ち並ぶ「橋向」の姿がありました。一方で「橋北」というと職人さんが多く暮らしていました。現在も世代は変わりましたが家業を引き継いで続けられている方が多くおられます。

「おびらばし」の前に架かっていた橋の名は「柳橋」、もう少し下流に位置し、その橋が結ぶ兩岸にはそれぞれの中心部があって人と車の往来という大切な役割を担っていました。後に、橋と平行に歩道橋が取り付けられ歩行者の安全性が高まり利用されてきました。この歩道橋の幅は狭く人と人がどうにか対向できる程でどちらかが止まるかお互いに両隅によってかわすしかないのです。こんな歩道橋ですから対抗する相手が進路を譲ってくれたら「あいさつ」や「会釈」をする光景は日常茶飯事です。今では車道も歩道も十分な幅のある大きな橋が架かり対抗する人や車に気を使う必要がなくなったのです。生活面では便利にはなった反面、薄れゆくものが多いように思えます。私たち住民にたくさんの教訓を残してくれた今はもうない歩道橋、この教訓を活かしていくことが私たちに託された歩道橋からのメッセージのように聞こえました。これからも「あいさつ」を大切にします。

尾平町南自治会長 平尾光男